

UP TRANGO XC2

エクスアルプス2011でトマ・ココネアが使った

謎のプロト機がついにペールを脱いだ。

過酷なコンディションで磨き抜かれたそのパフォーマンスは一級品!

求められる全てを高い次元でバランスさせたTRANGO XC2は

ハイエンドCクラスに旋風を巻き起こす!

戦闘力すら備えたハイエンドCクラス機!

あの翼がついに姿を現した!
昨年開催されたレッドブル・エックスアルプス2011は、日本国内でも特集番組が放映されパラグライダーの魅力を多くのオーディエンスに伝えてくれた。その中でも果敢にチャレンジして2位でゴールしたトマ・ココネア選手への活躍に感銘を受けた方も多いだろう。

人間機関車の愛称を持つトマは走りばかりが目されるが、今回のレースでは着実にフライト比率を高めてい

た。特に9日目は堂々たるフライトで92kmを飛び、難所と言われる6つ目のターンポイント、マッターホルンをあっさりクリアして見せた。この日のビッグフライトがなければ、最終日の歓喜は成し得なかった。
ゴールまでの14日間、総移動距離1807kmの実に45%(826km)をフライトした。彼のフライトを支えた真の白なUPプロトは、レースのフィードバックを受けて「トランゴXC2」の名を与えられ登場した。もちろんエックスアルプス仕様は超軽量モデルだった

が、シリアルモデルでは総合的な使い勝手を考慮した仕様が与えられている。
高い完成度でDクラスの性能とCクラスの扱いやすさを!

2010年末、UPはチーフデザイナーとしてフランティセック・パウロウセックを迎えた。それまでのUPはやや大きめの翼面積で、独特のフライトフィーリングを持ち味にしてきた。しかし2011年の彼の一作目となるサミットXC2(EN・C)では、翼面積を小さくすることで、操縦のし易さと安全性というUPの基本理念に加え、より広い層が好むフライトフィーリングを与えることに成功している。以降、タンデム機のK2、マカル3(EN・B)と立て続けにニューモデルを投入し、着実に新しいラインナップを整えている。

エクスアルプス2011で2位に輝いたトマ・ココネア選手が使用したUPプロトが、トランゴXC2のベースになっている。



とBTS(ブレイクテック)のリングシステムIIブレイク操作時にトレーニングエッジを絞り込むように引き下げる)によりどんな迎角でも快適な操縦感と最適なテンションを可能にしている。

フラッグシップの超機嫌なフライター!

アスペクトの高さを感じさせない洗練されたライズアップ。UPはこのテイクオフを「child's play」と表現している。スクール機を連想させるようなソフトで自然な感覚は、今後新生UPの大きな特徴になっていくに違いない。

練習場で2回ショートフライトを試した後、テイクオフへ移動。地元パイロットはベストタイミングを待っているが、一刻も早く飛び出したい気持ちがかみ上げる。タイミングを図ってテイクオフ。翼が形成されるやいなや、翼が飛べたいという意識を伝えてくる。この感覚は、まさしくコンペ機そのもの

のだ!
空中で感じる安定感、浮きの良さ、軽快な速度感、正確な旋回など、すべての特徴は予想を遙かに上回る高感触を持った。

特に翼剛性の高さが抜群の安心感を与えてくれる。翼を見上げてみるとスパン方向に4重に縫い込まれたサポーターが目に入るが、これが高い翼剛性を生み出す一因になっている。翼の剛性

感に対して翼端の柔らかさが少々気になった(UPは「Tappin」と表現)が、クラバットのリスクを避けてパイロットは最小限に止めた結果で、気にする必要はま

ったく小さそうだ。
トリムスピードは約38~40km/hと速度感が心地よい。アクセルは軽く快適な足でもストレスなく使用できる。このクラスに乗るパイロットはポッドハネスを使用することが多いが、このセッティングは大歓迎だ。フルアクセルは約55~57km/h(アークセルのストロークは14cm)で、単純な高速化を図るのではなく、Cクラス取得を実現したス

ピード設定となっている。
トランゴXC2は、コンペやクロカ、フリーフライトに力を発揮できるオールラウンドな総合力が最大のセールスポイント。一度試乗すれば決して忘れられない強烈なインパクトを受けるに違いない。

お薦めのパイロット像

「安全マージンをもっと欲しいがパフォーマンスは棄てがたい」と考えている、Dクラス機に乗り慣れたパイロット。あるいは現在Cクラスに乗り込んでいて、より積極的なフライトを狙うパイロットにとって、トランゴXC2は最高のチョイスになるだろう。
一方、BクラスからステップアップするパイロットにはサミットXC2がある。Cクラスの認証を受けているが、あくまでもパフォーマンスはDクラスである。

ハイアスペクトにもかかわらずスクール機のような自然なテイクオフ特性。これからのUPのセールスポイントになるだろう。



長いナイロンロッドで形成されたリーディングエッジは、Bライン取り付け部分まで伸びている。



ライザーはシンプルな3本をベースに、分岐するAラインの翼端側やスタビライザーはダイニーマを使用。Cライザーコントロールを可能にするプラスチックボールが取り付けられているのも、高い飛行性能を予感させてくれる。

TRANGO XC2

サイズ	S	SM	M	L
翼面積(投影)㎡	18.5	19.7	21.4	23.5
翼面積(実測)㎡	22.3	23.7	25.8	28.4
翼幅(投影)m	9.4	9.7	10.1	10.6
翼幅(実測)m	12.3	12.7	13.3	13.9
アスペクト比(投影)	4.8			
アスペクト比(実測)	6.8			
飛行総重量 kg	60-80	75-95	90-110	105-130
速度 km/h	40-58			
安全規格(EN)	C			
標準小売価格	¥598,000 → ¥418,900			

※製品仕様は予告なしに変更になる場合があります。

製造元: UPインターナショナル/ドイツ
輸入・販売元: 南さんじゅう
〒321-0341 栃木県宇都宮市古賀志町1796-1
[TEL] 028-652-5531 [FAX] 028-652-5532
[E-mail] info@sanjuu.com
[URL] http://www.sanjuu.com/